建築工房 暖㈲　取締役社長

長谷川 竜之介

『建築工房 暖』の創業者である父親を亡くして、間もなく１年。
父親が遺してくれた人脈という無形の財産、そして社員の存在に支えられ、
「やるしかないと覚悟を決めた」と突然の代替わりに見舞われた当時を振り返る。
そして、「父に並び、超えたいという想いでした」と言葉を続けた。
父親と同じ職業を選び、同じ道を歩む上で、社長にとって父親は目標だったのだ。
「幸せな人が増えてほしい」との気概で家づくりに向き合う職人として父親の背中を追いかけ、
「父は超えられません。そんな、まだまだ努力が必要な状況を楽しんでもいます」と社長。
正念場も楽しむ、そこに社長のハングリー精神を見た。

気

「父を超えたいけれど、なかなか超えられない。
でも、精進が必要である今を楽しむ自分がいます」

© 2017 KOKUSAI-TSUSHINSYA Co.,Ltd.

住まう人を幸せにする
そんな家を一軒一軒、築きたい

取締役社長
長谷川 竜之介

静岡県静岡市出身。大工だった父親の背中を見て育ち、幼少期より建築の世界に慣れ親しんだ。10 代後半から、知人であった棟梁のもとに弟子入りし、修業。父親が創業した『建築工房 暖』に入社し、父親のもとでさらに修業を積んだ。父親の急逝に伴い、2016 年に代表職に就任。

「生活や暮らしとは人生そのもの。居心地の良い家に暮らす、幸せな人が増えてほしい」――。そんなコンセプトで、住まいづくりを手掛ける『建築工房 暖』。アメリカンヴィンテージ系やアーミー系を得意とし、建売住宅ながら、注文住宅のように一軒一軒のテイストを変えて、お客様の家への夢や要望を叶えている。本日は、2016 年より代表職を務める二代目の長谷川竜之介社長に、タレントの黒田アーサー氏がお話を伺った。

対談に参加して下さった宅地建物取引士の佐藤陽子さんを交えて

先代が築いた会社を引き継ぎ 社員らと事業を守り続ける

――早速ですが、長谷川社長は二代目を継がれたばかりと伺っています。社長は建築業界一筋で？

（長） はい。父が大工で、幼いころから現場によく連れて行ってもらったので、大工の仕事や木の香りを身近に感じながら育ちました。それで早くから大工を目指し、10 代後半で父の知人だった大工の棟梁のもとに弟子入り。当初は根拠のない自信があって、自分でも簡単にこなせると思っていたんです。職人の方々にとっては失礼な話ですよね（笑）。でも、仕事を始めてみたら想像以上に厳しくて、自分の甘さを知りました。

――ご自身の甘さを知った時が、職人としての本当のスタートだったのでしょう。

（長） そう思います。それからは努力するしかなかったですね。5 年間ほど棟梁のもとでみっちり技術を叩き込まれました。そして、父が創業した『建築工房 暖』に入社。父のもとで経験を積んでいたのですが、昨年 8 月に父が急逝し、私が後を継いだのです。父はまだ 51 歳でしたし、亡くなった日も変わらず現場に出て、いつも通りの一日だったはずが……本当にショックでしたね。父自身も、無念だっただろうと思います。

――それは、ショックが大きかったことでしょう。急な代替わりで戸惑うことが多かったこととお察しします。

（長） 引き継ぎの話なんて全く出ていませんでしたし、会社は突然、代表者を失いましたからね。私も、何から始めたらいいのか分からない状況でした。でも、佐藤を始め社員たちが支えてくれたお陰で、父亡き後もこうして事業を続けてくることができたんです。

――佐藤さんは、こちらに勤めるようになられて、もう長いのですか。

（佐） ええ、私が宅地建物取引士の資格を取得したのと同じころ、先代が当社を設立され、土地探しから新築まで一貫して手掛けたいとお考えでした。それで、私の資格を活かせればと入社させていただいたんです。社長が小学生のころから知っているんですよ（笑）。社長は、子どものころからご友人が多くてリーダー格的な存在でしたし、会社の代表を務める今も、とても頼もしく感じています。先代は、これから事業を拡大していこうとお考えでしたから、社長が先ほど言ったように、無念だったと思います。

――これからという時だったのですね。

（佐） 当時は建築途中の現場が 3 棟あり、売らなければならない分譲住宅も抱えていました。それらの工事も無事に完了し、分譲も売れて、今年 3 月にようやく一息ついたばかり。社長が采配を振るい、上手く回してくれています。

一軒一軒テイストが異なる建売住宅で デザインも価格面も満足度が高い家を

――順調に業績を積んでおられるようですね。御社の家づくりについてお聞かせ下さい。

（長） 当社がつくる家の特徴は、建売住宅でありながら注文住宅に近く、お客様の家への想いやこだわりにお応えできることです。

――しかし、あくまでも注文住宅ではなく建売住宅である、と。

（長） ええ。一軒家を新築したいけれど、雇用や資金面における不安から躊躇される方が多いんですね。建売住宅のメリットは、土地・建物がついて、ローコストで購入できることですから、当社は建売住宅をお勧めしています。ただ、住まう人が違えば、ライフスタイルも好みも違います。そこで当社は、一軒一軒、テイストを変えています。

――建売だと、デザインも住宅設備も似通っているのが一般的ですから、それは珍しいですね。

（長） ヴィンテージ・アーミーデザインに特化した住宅が得意で、様々なテイストの家の中からお客様にお選びいただくことができ、「注文住宅に近い満足度で、買いやすい価格」である点が喜ばれていますね。それに、自社で施工しているので、建設前なら住宅設備などについての簡単なご要望にお応えできます。

――それは、嬉しい。今後もそうしたスタイルで？

（長） はい。今は年間 5 ～ 7 棟のペースで建築していて、今後はこれを 20 棟にまで増やしたいですね。新築件数を伸ばすだけでなく、住まう人を喜ばせられるようなアイデアの詰まった家をつくりたい。多くの方に気に入ってもらえる家を建てれば、その地域に新しい家族が入ってきて、人口が増えるでしょう。そうして、良い家づくりを通して街を活気づけたいですね。さらに、この 4 月からはデイサービス施設の工事をスタートさせ、介護施設の建築も手掛けるようになりました。分野の枠を超えて、皆さんの暮らしを支えていきたいです。

（取材／ 2017 年 4 月）

After the Interview 黒田 アーサー

「昨年 8 月にお父様が急逝されてから、引き継いだ事業を大変な想いで守ってこられた長谷川社長。お父様が亡くなられる 1 週間前に顔合わせを済まし、結婚されるご予定だったとか。喪が明けたらご結婚されるそうで、生涯の伴侶を得て、ますますお仕事に邁進されることでしょう。幸せなご家庭を築いていって下さいね」

Column

「幸せな人が増えてほしい」――。『建築工房　暖』の住まいづくりを支える、この理念は創業者・長谷川真己氏が掲げたものだ。真己氏は、体に優しい自然素材を用いて、家族が幸せに暮らし、そして大切に住み継がれていくような家をつくるべく現場に立っていた。しかし 2016 年 8 月、普段と変わらず現場に出ていたある日、真己氏は突然、その生涯を閉じる。子息である長谷川竜之介社長は、悲しみに暮れるが、父親が遺した会社を守らなければならず、「父は社員からも信頼を得ていましたから、絶対的リーダーを失った喪失感は大きかった。でも、考える間もなく、やるしかなかった」と当時を振り返った。先代の急逝から、間もなく 1 年。先代が掲げた理念を社長が守り継ぎ、『建築工房 暖』は家づくりを通して幸せな人を増やしている。

COMPANY PROFILE

不動産・建築・中古車販売
建築工房 暖
建築工房 暖 有限会社
静岡県静岡市清水区蒲原一丁目 7 番 3-1 号
URL：http://www.dan-kobo.com

© 2017 KOKUSAI-TSUSHINSYA Co.,Ltd.